

著者 會員 工学博士 久野 重一郎

新郷君は、測候所の屋外観測にもとづく理科年表の値を引用して、拙文中の消光係数値に、温度の影響が現はれてゐるやうにいわれます。これは 大ぶん亂暴な考へ方ぢやないかと、私は思ひました。

拙文中に明記してある通り、實驗時の室温は、冬でもかなり高くなつてゐます。部屋にスチームが入つてゐたからであります。1日の最高温度は、冬でも、春秋に劣らぬ日が多かつたわけであります。その上、實驗するときには、試片をこの室温中に放置し、試片が室温と一致するを待つて試験するやうに、注意いたしましたのであります。かうして得た結果を、漠然と、外氣の温度に關係させることには、無理があると私は思ふのであります。

『丁度北向の博多灣の岸近い實驗室の 12-4 月の室温も想像されることであるから……』と新郷君は書いてゐますけれども、あの部屋は朝日もうけるし、西日もうけます。その上、よくきくスチームがある。理科年表の値とは大ぶん違ふわけです。想像をもとにして、實驗結果を評する新郷君の考へ方には、同感し難いものがあるのであります。

『……消光係数は、大体に於て、試片の温度に支配されてゐるやうに考へられる。これは、久野氏自身も考へて居られることと思ふ』。新郷君は、かう記してゐますが、この後半は、私にとつて迷惑な御言葉でありました。温度に支配されてゐるのかどうか、私には、よく分らないのであります。温度の影響かも知れないが、或は、他の要素が加つてゐるかも知れない。温度の影響をいひたい場合には、その目的に適ふやうな實驗を行はねばならぬ。フェノライトの現象は、さう簡単に、結論へ急いではいけないと、私は思つてゐます。フェノライトについて、誰よりも深い經驗をもつて居られる辻博士は、『この材料は魔物である』と話されたことがありました。よく研究すればするほど、複雑なものであることが、知れて來るやうであります。さういふ御經驗をおもちの上で、いつて居られるのでせうか。

フェノライトに於ける温度の影響は、誠にむづかしい問題だと思ふのであります。それは、温度だけの影響を抽出して計測することが、なかなか困難だからであります。拙文に記した程度の僅少なデータ（しかも変化範圍の狭い數値群）をもつて、断定できるやうな、簡單なものではないと思ふのであります。